**審判講習会（２級更新・ジュニアからの移行）参加者　事前資料**

**１ アンパイヤーの心得**

アンパイヤーは、プレーヤーに信頼されるとともに、観衆に好感をもたれることも必要である。

そのためには【審判規則第７条】を心得ておかねばならない。

**２ 審判員留意事項**

**（１）判定区分**

【審判規則第８条】に基づく。線審をつけない場合は、その判定区分は正審が判定する。

**（２）正 審**

１）マッチ開始前にネットの高さ（サイドラインの上で1.07ｍ）、ライン､コート周辺の状況確認

２）ユニホーム、ゼッケン等について大会要項に沿ったものであるか確認

３）マッチ中は審判台の上でマッチの進行を担当し、定められた判定区分を判定するとともに、他のアンパイヤーの判定を確認した後、明確にコールする。

４）スコアボードの表示が正しいかどうか確認しながら進行する。

５）採点票は落ち着いて正確に記入する。

６）カウントのコールの時機は１つのポイントが終わり、サーバーが次のサービスの用意ができレシ

ーバー２人の用意ができたことを確認した時で、早すぎても遅すぎてもいけない。

７）正しいコールをする。もし、コールを間違えた場合は、「コレクション」とコールして正しいコー

ルをする。

８）サービスが行われようとしているときは、サービスするプレーヤーの足元に注意する。

（フットフォールト）

９）ネットにかかったフォールトは、必ず「フォールト」とコールする。コールがないと次の動作に移

れない。第２サービスは成立しない。

10）自分の判定区分のボールがアウトかインか確信が持てない場合は、落下点の痕跡を確かめてから

判定して差し支えない。この場合、正審は副審に依頼してよい。（副審が判定に迷う場合は、審判台

から降りて痕跡を確かめて判断してよい。）

11）他のアンパイヤーの判定区分の失ポイントとなることでコールを要するものについては、担当ア

ンパイヤーがサインしたものを、正審は正審のコールとしてコールする。

12）プレーを連続的に行わなかったり、マッチの進行に支障を与える形でパートナーとの打ち合わせを

したりするプレーヤーには「レッツプレー」のコールにより注意する。それでもプレーに入らないと

きは、イエローカードを与えることになる。（解けてもいない靴ひもを勝手に直す行為等）

13）プレーヤーに突発的な身体上の故障が生じ、プレーの継続ができなくなった場合、タイムの要求は

同一人が１回につき５分以内とし、同一マッチ２回までは認める。以後の要求又は許容時間内に回復

できなかった場合は棄権とし、相手方の勝ちを宣告する。（タイムアップゲームセット）

14）要項で認められた大会において、プレーヤーに対するコーチは、サイドのチェンジ（ファイナルゲーム中を除く）の場合及びファイナルゲームに入る場合にのみ認められる。その他のコーチングに対してはイエローカードを与える。

15）観衆または応援者などが騒がしくてマッチの進行に支障がある場合は、直接注意を喚起し必要が

ある場合は、大会委員長に連絡し対処を依頼する。

16）プレーヤーが使用しているラケットのストリングの張り方が特殊で、ボールに特別の影響を与え

ていると見受けられる場合は、正審がレフェリーに判断を要請する。（振動止め含）

17）マッチ終了後の「挨拶」が終わり勝者チームの監督に勝者サインをもらい、プレーヤーが解散して

対戦は完全に終了したものとする。正審は、採点票をコート主任に引き継いで、その対戦に対しての

任務が終わる。

**（４） 副 審**

１）マッチの開始前、コートの状況、ボールが選択されたものであるか、そのバウンドが適切であるかどうかを確認する。

（ボールのバウンドは、マッチを行うコートにおいて1.50mの高さから故意に力を加えることなく

落下させた場合、コート面で弾んだ後の最高到達点がボールの下端で70㎝～80㎝までの範囲）

２）マッチの進行中は常にボールの行方とプレーヤーに注意を払い、動作を機敏にする。

３）正審のコールが正しいかどうかに注意を払い、誤っていたらタイムを取って訂正を促す。

４）定められた判定区分のイン、フォールト、アウトの判定をするとともに、正審を助ける。

５）常に正審と連携を密にし、プレーに支障となることが発生したら正審にタイムを求める。必要に応

じ、サイドのチェンジのときに正審と打ち合わせや、アイコンタクトを図る。

６）サービスの判定の位置は、自分に近いサービスコートの場合はレシーブするプレーヤーの邪魔にな

らないようにサービスラインの仮想延長線上でサイドラインからやや遠目（約２ｍ）で判定を行う。

反対側遠い方のサービスコートの場合は、サービスラインの仮想延長線上でサイドラインのより近

いところで判定するように心がける。

７）サービスの判定する位置に着いたら、気を付けの姿勢で、正審のコールで構えの姿勢に入る。

８）サービスの判定後は、速やかにネットポスト後方約６０ｃｍの定位置に移動し、直立してラリーを

見守る。

９）イン、フォールト、アウト以外のその他の判定区分（レット、チップ、ネットタッチ、タイム等）

に対してはサインと共にコールを行う。

10）その他の判定区分で、失ポイントに該当する行為の場合は、片手で該当行為を行ったプレーヤーを

指差してコールにより指摘する。（該当するサイド側の手で行う。）

11）自分の足元の判定には特に注意すること。（ネット近くのライン際に落ちたボレー等）

12）アウトの場合は、ボールの落下点に正対して注目し、掌を内側に向け、指を伸ばしコートに対し外

側の手を上にまっすぐ挙げる。

13）ベ一スライン上の判定はしないが、落下点は確認しておくこと。トラブルが起こった場合は、正審

の指示を受けて落下点に行って確認し、その場でサインはせず、審判台の正審のところへ行き報告す

る。

14）フォールトでネットにかかったものはサインをしない。インに対しては、原則としてサインをしな

い。

15）サイドのチェンジや次のポイントまでの待機のときは、足を揃え、手を後ろや前で組んだりせず体側につけ、指先は自然な形で伸ばした姿勢を取る。（休めの姿勢にならないようにする。）サイドのチェンジの待機の位置は、ネットポストの左脇とし、選手通過後は元の位置に戻る。

16）副審のサインは２～３秒間程度静止の姿勢ですぐに下ろさないようにする。

**（５）判定について**

１）判定区分が重なる場合

区画線による判定区分が同じ場合は、副審または線審が正審に判定の資料を提供する。

この場合、正審は副審または線審の判断を尊重して判定する。

２）副審が間違って判定した場合

ア 副審が、間違った判定区分を間違って判定（二重の間違い）した場合

正審は「タイム」とコールし、副審を呼んで注意し、両ペアを集めて説明した後、「ノータイム」、

「コレクション」、正しい判定（レット、ノーカウントあるいは、判定の変更をする場合はイン）を

コールし、プレーを再開する。例：副審がベースラインのインのボールにアウトのサインを出した。

イ 副審の判定区分で、副審の判定が間違っている場合

正審は副審のサインどおりコールしてから「タイム」をかけて確認する。以降アと同様の手順で行

う。（例：副審が副審側のサイドラインのインのボールをアウトのサインを出した。）

３）誤った判定をした場合

誤った判定をしてしまったときは、必ずプレーを止めること。アンパイヤーの1人が誤ってプレ

ーを中止するサインをした場合も、必ずプレーを止めること。

**（６）サイン**

アンパイヤーは、プレー中「イン」のボールに対しては原則としてサインをしない。ただし、「イン」

のサインを行う場合は、プレー終了後プレーヤー及び観客が判定に迷うと思われる時に、「イン」であ

ることを知らせるために、掌を下にして片手を前方斜め下に差し伸べることが望ましい。

【審判規則第11条解説23の２】

**（７）採点票の記入について**

１）正審は、採点票に必要事項を正確に記入する。

コート番号及びプレーヤーの①番号、②所属、③選手氏名は進行委員が記入することを原則とし、

正審は必ず確認するとともに担当アンパイヤーの氏名及び開始時間を必ず記入する。

２）サービスのプレーヤー・レシーブのプレーヤーが決まればＳ・Ｒの部分を○で囲む。

３）サイドを選択したプレーヤー欄の下部の「サイド」を○で囲む。

４）ポイントの欄には、ポイントを得たのを○、失ったポイントは☓を上段左から右に記入する。

５）ゲームを終わるごとにそのゲームで得たポイント数を中央のスコア欄に記入し、そのゲームを得

た側の数を○で囲む。

６）マッチ終了後は（スコア）欄に得たゲーム数及び終了時間を必ず記入し、勝者の側のゲーム数を

○で囲む。

７）警告欄に該当プレーヤー及び監督に出した警告（イエローカードＹ・レッドカードＲ）を○で囲

み該当事項欄にその理由を記入する。（遅延行為、ゲーム中のコーチング、判定結果に不服等）

８）タイム欄に身体上の故障によるタイムの発生ごとに５を○で囲む。

９）マッチ終了の際、マッチ終了のコールをしてからプレーヤーとの挨拶をするまでに、時間的余裕

がない場合は、挨拶を済ませてから採点票の記入を完了するのが適当である。

10）勝者サイン欄に勝者選手のサインを記入してもらう。

11）正審が記入を完了した採点票は、コート主任とともに記入事項を確認し、進行委員に引き継ぐ。

**（８） 質問に対する対応手順**

１．競技規則第40条（異議の申立て等の禁止）［解説17］の４により、質問はチームの監督又はそ

　のプレーヤーのいずれかがアンパイヤーに申し立てることができる。ただし、ポイントの判定に

ついてはそのポイントに限る。なお、質問に対しては審判規則第14条により判定する。提訴については、団体戦では、監督またはプレーヤー、個人戦ではプレーヤーができる。

２．判定に対して、アンパイヤーに質問できる。

３．アンパイヤーは質問の内容を確認の上、タイムをコールする。再度判定の結果を正審から通告

　する。

４．「明らかに○○です。プレーを再開します。」 ノータイムとコールとする。

５．当該通告に関するプレーヤーからの問い合わせは異議とみなし、競技規則第41条及び第42条の

規定により処理するものとする。

６．指示に従わない場合には「警告」（イエローカード）を与える。なお、「警告」が３回目にお

よぶ場合は「失格」（レッドカード）を与えることとなるので、レフェリーと連絡を取るように

コート主任等に依頼する。

７．質問の内容を確認し、判定に誤りがあれば勇気を持って判定の訂正を行うこととする。

８．ポイントカウントの誤りについてはそのゲーム内に、ゲームカウントの誤りについてはそのマ

　ッチ内に再判定を行うものとする。